

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3160540号
(U3160540)

(45) 発行日 平成22年7月1日(2010.7.1)

(24) 登録日 平成22年6月9日(2010.6.9)

(51) Int.Cl.

A 4 1 B 9/04 (2006.01)

F 1

A 4 1 B 9/04

G

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2010-1284 (U2010-1284)
(22) 出願日 平成22年3月2日(2010.3.2)(73) 実用新案権者 000005359
富士紡ホールディングス株式会社
東京都中央区日本橋人形町1丁目18番1
2号
(74) 代理人 100068124
弁理士 大野 克躬
(74) 代理人 100073117
弁理士 大野 令子
(72) 考案者 石井 香衣
東京都中央区日本橋人形町1-18-12
株式会社フジボウアパレル内
(72) 考案者 横内 美幸
東京都中央区日本橋人形町1-18-12
株式会社フジボウアパレル内

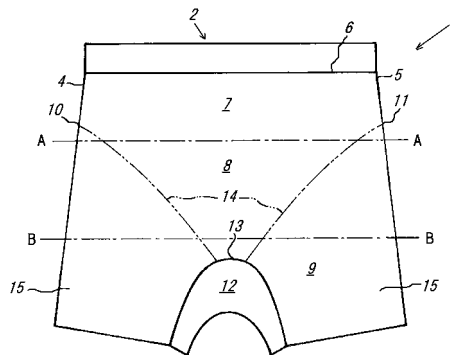
(54) 【考案の名称】 女性用成形ショーツ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】伸縮性の編み糸および編成方法を変えて所要の伸びをもたせることにより、肌触り良く窮屈感をもたない女性用成形ショーツを得る。

【解決手段】女性用成形ショーツは、ショーツの前身頃2および後身頃の両面を、上部7、中部8、下部9の三領域に分けて編成し、成形ショーツ身頃本体の上部、下部に使用される弾性糸を太くて緊迫力の強い弾性糸とし、中部に使用される弾性糸を、上部、下部に使用される弾性糸より緊迫力の弱い弾性糸を使用することにより連続して編成する。しかも編組織を部位によって変化させることにより、各部位に必要な伸び率と緊迫性をもたせることができ、女性下半身に無理なくフィットし、着心地の良い成形ショーツを形成する。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

女性用成形ショーツにおいて、ショーツ身頃本体の前身頃および後身頃の両面を、ウエスト部から股下脚部上部にかけて、上部、中部、下部の三領域に分けて連続して編成してなる編地とし、成形ショーツ身頃本体の上部、下部の編地に使用される弾性系を太くて緊締力の強い弾性系とし、身頃本体の中部に使用される弾性系を、上部、下部に使用される弾性系より緊締力の弱い弾性系とすることにより編成してなる編地を用いたことを特徴とする女性用成形ショーツ。

【請求項 2】

女性用成形ショーツ前身頃の、ショーツ身頃本体上部と中部にわたり、前身頃ウエスト部から前身頃の股下に設けたクロッチ布にいたる腹部を覆う逆三角形部分の編み組織、及びショーツ後身頃のショーツ身頃本体下部におけるヒップ下端外周より下方に相当する部分の編み組織とを、伸び率を低く編成し、これらの部分の伸び率を低く抑えたことを特徴とする請求項 1 に記載の女性用成形ショーツ。

10

【請求項 3】

女性用成形ショーツの前記腹部を覆う逆三角形部分を除く左右裾口に至る脚部を含む前身頃、及びショーツ後身頃のショーツ身頃本体下部におけるヒップ下端外周より下方に相当する部分を除くヒップ部を含む後身頃、及びクロッチ布とが請求項 2 の部位より伸び率の高い編地で編成されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の女性用成形ショーツ。

20

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、女性用成形ショーツであって、腹部や腰周りによくフィットし、しかもヒップアップ効果をも有するボーズレングスに関する。

【背景技術】**【0002】**

近年、女性用成形ショーツとして身体によくフィットし、運動時にもずれが生じないボーズレングスと呼ばれるショーツが好まれるようになった。ボーズレングスは、主として伸縮性の布地を使用し、ウエスト部から腹部と腰部を覆い、股下下方において両脚部上端を覆う身体形状に沿った形状のものであるが、近年、更に着用時の装着感の向上に加えて、女性身体の補整成形機能をも有するボーズレングスが好まれるようになった。従来は、腹部、腰部の補整成形のためには、ガードルが使用されており、ガードルとしての補整成形効果を高めるために種々の考案がなされている。

30

【0003】

例えば、ボトム下着として複数本の糸条を合わせたプレーティング編により編成し、後身面にフロート編み組織で後身頃の全幅にわたって延びる略工字型ヒップ引き上げ部を設け、ヒップ部を持ち上げる構造が開示されており（特許文献 1）、また、ガードル本体生地裏側に、本体生地よりも伸縮性に富んだ生地を取り付け二重構造とし、腹部やヒップ部も必要に応じて三重生地構造とすることも開示されている（特許文献 2）。更に、非伸縮性布材と伸縮性素材からなる布パネルを縫着したもの（特許文献 3）、一定のヤーン伸長率の高い高伸度の弾性系を使用して丸編み又は平編みにより伸び率の異なる複数の編み組織で編み上げるガードル等の下着も提案されている。（特許文献 4）

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】実用新案登録第 2 5 3 3 1 6 7 号公報

【特許文献 2】実用新案登録第 3 0 1 3 6 2 2 号公報

【特許文献 3】特許公報第 2 9 2 8 1 1 7 号

50

【特許文献4】特許公報第3641359号

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

上記したようなガードルは、腹部、腰部の補形、成形を目的とし、ショーツに重ねて着用されるが、ボーズレングスは直接肌に接して、肌着と体型補整との両方の目的を達することが必要とされる。そこで、本考案のボーズレングスは、緊締力の異なる二種類の弾性系を使用し、編組織を各部で変えて所要の伸びをもたせることにより、肌触り良く窮屈感をもたずにヒップアップを図ると共に腹部を押さえることを目的としてなされたものである。

10

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案の請求項1に記載の女性用成形ショーツは、ショーツ身頃本体の前身頃および後身頃の両面を、ウエスト部から股下脚部上部にかけて、上部、中部、下部の三領域に分けて連続して編成してなる編地とし、成形ショーツ身頃本体の上部、下部の編地に使用される弾性系を太くて緊締力の強い弾性系とし、身頃本体の中部に使用される弾性系を、上部、下部に使用される弾性系より緊締力の弱い弾性系とすることにより編成してなる編地を用いた女性用成形ショーツである。

【0007】

請求項2に記載の女性用成形ショーツ前身頃のショーツ身頃本体上部と中部にわたり、前身頃ウエスト部から前身頃の股下に設けたクロッチ布にいたる腹部を覆う逆三角形部分の編組織、及びショーツ後身頃のショーツ身頃本体下部におけるヒップ下端外周より下方に相当する部分の編組織とを、伸び率を低く編成し、これらの部分の伸び率を低く抑え、腹部を押さえるとともにヒップアップ効果を有するように構成された女性用成形ショーツ瀨ある。

20

【0008】

本考案の女性用成形ショーツは、前記腹部を覆う逆三角形部分を除く左右裾口に至る脚部を含む前身頃、及びショーツ後身頃のショーツ身頃本体下部におけるヒップ下端外周より下方に相当する部分を除くヒップ部を含む後身頃、及びクロッチ布とが、弾性系を使用して請求項2に記載の部位より伸び率の高い編地で編成されている。

30

【考案の効果】

【0009】

本考案の女性用成形ショーツは、ショーツの前身頃および後身頃の両面を、上部、中部、下部の三領域に分けて編成し、成形ショーツ身頃本体の上部、下部に使用される弾性系を太くて緊迫力の強い弾性系とし、中部に使用される弾性系を、上部、下部に使用される弾性系より緊迫力の弱い弾性系を使用することにより連続して編成し、しかも編組織を部位によって変化させることにより、各部位に必要な伸び率と緊迫性をもたせることができ、女性下半身に無理なくフィットし、着心地の良い成形ショーツが得られた。た女性用成形ショーツである。

【図面の簡単な説明】

40

【0010】

【図1】図1は、本考案の女性用成形ショーツ本体の正面図である。

【図2】図2は、本考案の女性用成形ショーツ本体の背面図である。

【図3】図3は、女性用成形ショーツのクロッチ布を示す平面図である。

【考案を実施するための形態】

【0011】

本考案の女性用成形ショーツを図面によって説明する。

女性用成形ショーツ本体1の前身頃2及び後身頃3は、前身頃2及び後身頃3の両脇部4, 5に剥ぎ目を設けることなく連続して筒状に編成するが、編糸と編組織を女性用成形ショーツのそれぞれの部分において以下に説明するように変更しながら編成する。

50

【 0 0 1 2 】

まず、前身頃 2 と後身頃 3 は、弾性系と非弾性系とを引き揃えて、上端部から連続して筒状に編成するが、前身頃 2 及び後身頃 3 を横方向に 3 分割する仮想線 A—A、仮想線 B—B で示す位置において、ショーツ前身頃 2、ショーツ後身頃 3 を、上部 7、中部 8、下部 9 の三部分において編成に使用する弾性系のデニール数を変更する。即ち女性用成形ショーツにおいて、ショーツの上部 7 及び下部 9 に使用される弾性系が太くて緊締力の強い弾性系であり、中部 8 に使用される弾性系が上部、下部より緊迫力の弱い弾性系である。

本考案を限定するものではないが、一例として使用できる弾性系のデニール数を挙げれば、上部 7 及び下部 9 に使用される弾性系を 70 デニールとし、中部 8 に使用される弾性系を 40 デニールとすることができる。

10

【 0 0 1 3 】

このように三つの領域に分けて弾性系を変えて編成すると、即ちショーツの上部 7、ショーツの下部 9 の部分は編地の緊締力が強く、中部 8 は、上部 7、下部 9 より緊締力の弱い編地が得られる。本考案においては、このような弾性系の緊締力に加えて、編地の編組織を部分的に変化させることで、さらに成形用ショーツとしての機能を向上させることが好ましい。編地組織の構成について以下に説明する。

【 0 0 1 4 】

即ち、前身頃 2 の上部 7、中部 8、下部 9 には、ウエスト線 6 よりやや下方の両脇線上点 10、11 より股下に設けられるクロッチ布 12 の上端 13 にいたる逆三角形の腹部押さえ部 14 を形成するように、この部分をフロート編み等の伸縮性の低い編み組織を適宜選択して編成する。このようにすることで、前身頃の従来のガードル等に設けられる前当て布に相当する部分は、前身頃 2 の上部 7 及び下部 9 の太くて強い緊迫力の強い編系と、前身頃 2 の中部 8 の編系で伸縮性の低い編み組織によって腹部押さえ部 14 が形成され、腹部の突出を防止することが出来る。

20

前身頃 2 の上記逆三角形の腹部押さえ部 14 以外の両脚上部 15 はそれぞれ後身頃と連続して所定の弾性系を使用し、プレーン天竺編または畝編等によって編成する。クロッチ布 12 は、前身頃 2 の中部 8 の編系により、同様に伸縮性に富んだ編地で図 3 に示すような形状に編成され、前身頃 2、後身頃 3 の股部分に縫着される。

【 0 0 1 5 】

一方、成形用ショーツの後身頃 3 においては、上部 7 は緊締力の強い編系によりウエスト線 6 の下方を締めるように作用する。中部 8 は上部 7 より前述の如く緊締力の弱い編系で編成が行われ、ヒップの丸みに添った形状を保つように構成されている。本考案の成形用ショーツの編組織による第二の特徴は、仮想線 B—B より下方に位置し着用者の臀部下端に沿う仮想線 16 の下方部分 17 の編地を、緊締力の強い編系を用いて編成されるのに加え、フロート編み等の伸縮性の低い編み組織を適宜選択して編成することにより着用者の臀部下部 17 の伸縮性を低く抑え、ヒップアップ効果を達成することを可能とした点にある。前身頃 2、後身頃 3 の上端のウエスト線 6 には、従来法により伸縮性テープ 18 を縫着しても良いが、本考案においては身頃と一体に成形されている。

30

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 1 6 】

以上のような構成によって女性用成形用ショーツを編成すれば、煩雑な縫製、縫合を必要とせず、伸縮性系を使用しての編成のみで着心地が良く、しかも、下半身臀部にフィットするボーイズレングスを得ることが可能である。

40

【 符号の説明 】

【 0 0 1 7 】

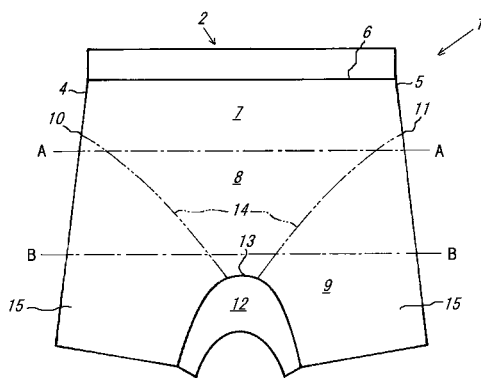
- 1 女性用成形ショーツ本体
- 2 前身頃
- 3 後身頃
- 4 脇部
- 5 脇部

50

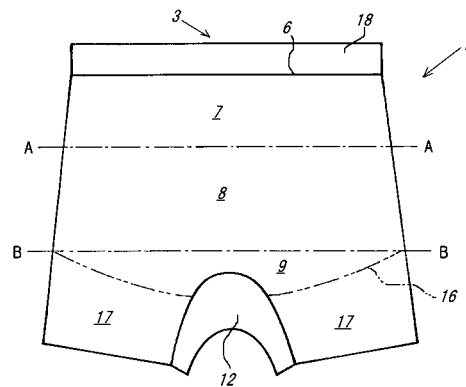
- 6 ウエスト線
- 7 上部
- 8 中部
- 9 下部
- 10, 11 両脇線上点
- 12 クロッチ布
- 13 クロッチ布上端
- 14 腹部押さえ部
- 15 両脚上部
- 16 仮想線
- 17 仮想線下方部分
- 18 伸縮性テープ
- A - A 仮想線
- B - B 仮想線
- C - C 仮想線

10

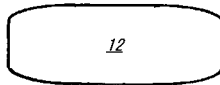
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【手続補正書】

【提出日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

女性用成形ショーツにおいて、ショーツ身頃本体の前身頃および後身頃の両面を、ウエスト部から股下脚部上部にかけて、上部、中部、下部の三領域に分けて連続して編成してなる編地とし、成形ショーツ身頃本体の上部、下部の編地に挿入される弾性糸を太くて緊締力の強い弾性糸とし、身頃本体の中部に挿入される弾性糸を、上部、下部に挿入される弾性糸より緊締力の弱い弾性糸とすることにより編成してなる編地を用いたことを特徴とする女性用成形ショーツ。

【請求項 2】

女性用成形ショーツ前身頃におけるショーツ身頃本体上部と中部にわたり、前身頃ウエスト部から前身頃の股下に設けたクロッチ布にいたる腹部を覆う逆三角形部分の編み組織と、ショーツ後身頃におけるショーツ身頃本体下部のヒップ下端外周より下方に相当する部分の編み組織とを、伸び率の低い編地で編成し、これらの前身頃及び後身頃における編地部分の伸び率を低く抑えたことを特徴とする請求項 1 に記載の女性用成形ショーツ。

【請求項 3】

女性用成形ショーツの前記腹部を覆う逆三角形部分を除く左右裾口に至る脚部を含む前身頃、及びショーツ後身頃のショーツヒップ下端外周より下方に相当する部分を除く後身頃の編み組織とを、伸び率の低い編地で編成し、これらの前身頃部及び後身頃における編

地部、及びクロッチ布とが伸び率の高い編地で編成されていることを特徴とする請求項2
に記載の女性用成形ショーツ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

上記したようなガードルは、腹部、腰部の補形、成形を目的とし、ショーツに重ねて着用されるが、ボーズレングスは直接肌に接して、肌着と体型補整との両方の目的を達することが必要とされる。そこで、本考案のボーズレングスは、緊締力の異なる二種類の弾性系を使用し、編組織を各部で変えて所要の伸びをもたせることにより、肌触り良く窮屈感をもたずにヒップアップを図ると共に腹部を押さえることを目的としてなされたものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本考案の請求項1に記載の女性用成形ショーツは、女性用成形ショーツにおいて、ショーツ身頃本体の前身頃および後身頃の両面を、ウエスト部から股下脚部上部にかけて、上部、中部、下部の三領域に分けて連続して編成してなる編地とし、成形ショーツ身頃本体の上部、下部の編地に挿入される弾性系を太くて緊締力の強い弾性系とし、身頃本体の中部に挿入される弾性系を、上部、下部に挿入される弾性系より緊締力の弱い弾性系とすることにより編成してなる編地を用いた女性用成形ショーツである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項2に記載の女性用成形ショーツは、女性用成形ショーツ前身頃におけるショーツ身頃本体上部と中部にわたり、前身頃ウエスト部から前身頃の股下に設けたクロッチ布にいたる腹部を覆う逆三角形部分の編組織と、ショーツ後身頃におけるショーツ身頃本体下部のヒップ下端外周より下方に相当する部分の編組織とを、伸び率の低い編地で編成し、これらの前身頃及び後身頃における編地部分の伸び率を低く抑え、腹部を押さえるとともにヒップアップ効果を有するように構成された女性用成形ショーツ瀨ある。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項3記載の女性用成形ショーツは、女性用ショーツの前記腹部を覆う逆三角形部分を除く左右裾口に至る脚部を含む前身頃、及びショーツ後身頃のショーツヒップ下端外周より下方に相当する部分を除く後身頃の編み組織とを、伸び率の低い編地で編成し、これらの前身頃及び後身頃における編地部及びクロッチ布とが伸び率の高い編地で編成されている。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

即ち、前身頃2の上部7、中部8、下部9には、ウエスト線6よりやや下方の両脇線上点10, 11から股下に設けられたクロッチ布12の上端13にいたる逆三角形形状の腹部押さえ部14を形成するように、この部分14をフロード編み等の伸縮性の低い編み組織を適宜選択して編成する。このようにすることで、前身頃の従来のガードル等に設けられる前当て布に相当する部分は、前身頃2の上部7及び下部9の太くて強い緊迫力の強い編系の使用と、前身頃2の中部8の編系で伸縮性の低い編み組織による編成とによって腹部押さえ部14が形成され、腹部の突出を防止することが出来る。

前身頃2の上記逆三角形形状の腹部押さえ部14以外の両脚上部15はそれぞれ後身頃と連続して所定の弾性系を使用し、プレーン天竺編または畝編等によって編成する。クロッチ布12は、前身頃2の中部8の編系により、同様に伸縮性に富んだ編地で図3に示すような形状に編成され、前身頃2、後身頃3の股部分に縫着される。